

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	外ヶ浜町立蟹田小学校
授業者	齋藤 翔太

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

水産業のさかんな地域

#### 1-2. 学年

第5学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会

#### 1-4. 単元の概要

漁業にはたくさんの漁法があること。さらに、わたしたちの食卓に届けられるまでにたくさんの人々が関わっていること。日本の水産業が抱える課題の中で様々な苦労と工夫があることを知り、これからの水産業についての自分の考えを深めていく、という単元構成になっている。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目させることで、水産業に関わる人々の工夫や努力で食料生産を支えていることを理解することができる。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

##### 【知識・技能】

- 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。
- 調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。

##### 【思考・判断・表現】

- 水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。
- 水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。

【主体的に取り組む態度】

○水産業における食料生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。

1-7. 単元の展開 (全 6時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	○日本の水産業の様子について、地図や統計資料等を読み取る活動を通して、わかったことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくる。 ○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。	○漁港の水あげ量の資料から空間的な見方を働かせ、日本の近海は良い漁場に恵まれていることに気付かせる。 ○写真資料等も活用し、魚の消費の多い日本が抱える課題に気付かせるようにする。
1	○まきあみ漁について調べ、わかったことをノートにまとめ発表する。	○地図から長崎漁港が地形的にも恵まれている環境であることを読み取らせる。 ○写真と図のほかに映像資料なども用意し、まきあみ漁のやり方や工夫について調べさせる。
1	○漁港の様子や水あげされた魚が食卓に届くまでの流れについて調べ、わかったことをノートにまとめ発表する。 ○魚が運ばれる道を道路地図で確認する。	○航空写真から漁港の広さやまわりの環境を読み取らせる。 ○とった魚が消費者に届けられるまでにはどのような人の働きがあるかについて気付かせる。 ○魚の値段には、生産から販売までの様々な費用が含まれていることに触れる。いろいろな人が関わったり、遠くへ運んだりした分、値段が高くなることも予想させる。
1	○養殖について調べ、わかったことをノートにまとめ発表する。 ○育てる漁業について話し合う。	○なぜ養殖は安定しているのかを考えさせる。 ○赤潮など海に関する資料を用意する。 ○養殖と水産センターとの関わりに気付かせる。
1	○かまぼこづくりについて調べ、わかったことをノートにまとめ発表する。	○漁港の近くに工場があることを知り、新鮮な魚が使えることに気付かせる。 ○全て機械作業でなく、手作業も多いことに気付かせ、工場の人々の願いについて考えさせる。
1	○日本の水産業の課題について話し合い、まとめる。	○漁業別の生産量の変化と水産物の輸入量の変化のグラフを比較して考えさせる。 ○漁業で働く人数の変化のグラフと学習してきたことを関連付けて考えさせる。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

日本の水産業がかかえている問題について調べ、話し合う活動を通して、今の自分にできることを考えることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1 これまでの学習を想起する。	
2 日本の水産業がかかえている問題点について予想する。 ・農業の勉強をしたときと同じように、働く人が減ってきているのではないか。 ・だんだん魚が食べられなくなるのではないか。	○これまでの学習や生活経験を振り返らせ、問題をとらえやすくする。 ○前小単元「米づくりのさかんな地域」で学習した農業の課題についても振り返らせ、水産業での課題について予想させる。
3 日本の水産業の課題について調べ、話し合う。 ・200海里水域の決定によって、遠洋漁業の漁獲量が減ってきている。 ・沖合漁業や沿岸漁業は、漁場の環境の悪化やとりすぎは関係ある。 ・安い魚の輸入も沖合漁業や沿岸漁業の減少と関係がある。 ・農業と同じように、働く人の数も減ってきている。	○「200海里水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量」「日本の水産物輸入量の変化」「漁業別の生産量の変化」「漁業で働く人数の変化」の資料をもとに課題を考えさせる。  ○生産量が減ってきていることを押さえる。
4 日本の水産業の課題をもとに、自分にできることを考え、発表する。 ・働く人を増やすために、イベントなどを行って水産業に興味をもつ人を増やす。 ・食べ物を大切にし、資源を大事にする。 ・養殖業のよさを生かしていく。	○実現可能な範囲で考えさせる。  ★日本の水産業がかかえる問題を理解し、水産資源を確保するために、自分にできることを考えることができたか。
5 今後の学習課題を設定する。	

### 3. 今回の活動の自己評価

児童は、水産業の仕事について調べたり、日本の水産業がかかえる問題について調べたりすることにより、水産資源の重要性に改めて気付くことができた。水産業がかかえる問題を解決するために、まずは自分たちにできることを実行することやの郷土の海である陸奥湾の環境保全をしていこうとする態度を養うことができた。今回の学習を通して、より自分事として「水産業」について考えるよい機会になったと感じた。

### 4. 今後の課題

蟹田地区には、保護者の中に水産業の仕事に関わる方が多いので、ゲストティチャーとして招いたり、蟹田地区の現状についても取り上げたりすることで、水産業についての考えをより深めることができたのではないかと感じている。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。